

一色いっしき

武部少輔源範勝のりかつハ武部少輔藤長ふじなが子  
なり寛永譜先祖ハ足利宮内少輔春氏はるぢ子  
七男小一せいのちテ左京右大臣公深三河國幡豆はたま  
郡名良ハ左一色小住乃基ハ一色阿闍  
梨あじト號シ遂小家號トナリたり  
祖父武部少輔晴具はるぐハ一色七郎ト稱  
一云文二年正月叙爵シ萬松院義晴

より諱の字と授けられ光源院義輝よ  
り領地の證文とありて同十八年  
死ありに藤長とていふ名七郎と  
いひ家譜後小一遊齋と號し寛永天  
文六年叙爵し光源院義輝とて女義  
藤と稱せし時諱の字とありて心  
祿書とたゆひにれより藤長と名の  
る同十二年義輝より領地と授けられ

其後加恩に地はわさるるに三夜  
不及ひ其れに奉書と下つる靈  
陽院義昭よりと志し書と贈つ家譜  
織田右府豊后守閣よりと又數通の書  
札は賜りまじりまじり  
東照宮よりと書と賜りて女慶長  
元年四月九日卒し範勝とてめ七郎  
といひまじりな書とありて女慶長

十六年駿府小とくくくめく

東照宮小由み久奉つ寛永大札より

次之奉る家元和二年三月

東照宮大政大臣小住清年給ふ藩勅使

とくくく廣橋大納言兼勝三條大納言

實條駿府小森向ありやうく營中小

て郷食東武給ふ實條時小西傳奏以陪膳小

西尾丹後守忠永依本玄部少輔義定

及び範勝小命せ武徳編此時永井右

近去吏直勝言よ年集成くくく範勝官位か

くくく諸大吏侍従小列して此事以

後以くくく以くくく

東照宮聞召札一色名家たること

かみか人の知所ありくくく官位くくく

てその後小あつくる中最親換こと

きくく何くくくけあんやく

仰ありし久別為帽子系袍と著し

て大社紙つと心寛永後清書院の番士

とあり寛永三年清上洛の時供奉

と東武同九年八月清使番小轉しと

と十一月従五位下小叙し御日記家譜

永清小八寛永六年十二月とひ今清日記小と小酒井讚岐守忠

勝して仰ありし久一色に家諸吉吏不

相應しとあり

東照宮仰有と之とと五位小叙しと

まご規換るしひやりの望ありと

心小任せんとの意小よりて遂に範勝

叙爵をり武林隠同十年六月とと五十

三小して死ひ法名宗清と號し寛永

其子右馬助範親ツクいとめ範次ツクと

家武藏小生ると元和八年十四歳小ては

とあり

大猷院殿と拜し奉つ寛永後清書院の

番士とあり東武實錄○按する小武林徳見保小法花相の番く記し寛永

十年十二月遺跡とつる二千石と知行

と記治日慶安二年とつる四十二町と

死家譜○按する小武林徳見保小五十歳とあり  
たは下初見八年とつる惟時家譜の説とあり

其子長七郎範供遺跡は家譜

○子孫系圖  
詳るる

一色

彌次郎源貞重三子八王殿某の子なり按

る小家傳近江小生寛永左馬助範

房重房小つる房房高小して祖父と王殿某と

家譜○按する小家傳小八重成とあり貞重後利鬚と

運と號とつる六歳にして父小と

るま住勢小後で住るる其後召出

これ